

## V 情報を収集するための実践例

自分を活かす進路選択に当たっては成績等の一面だけで上級学校を選ぶことなく、生徒が自分の興味や関心、適性等を踏まえ、将来の職業や生き方につながる上級学校などを探していくことが重要です。そのためには、上級学校の特色を十分に理解して進学先を選ぶことが必要です。

生徒や保護者が自ら必要な情報を収集することは重要ですが、中学校の教員が生徒や保護者が必要とする情報を提供できることも重要です。

教員の進路情報の収集については、生徒・保護者による主体的な進路選択を重視するあまり、教員が自ら高等学校に出向いて情報収集することや、中学校が高等学校と情報交換することが不足していることなどが指摘されています。そのため中学校の教員が、高等学校へ訪問するなど情報収集・情報交換を適切に行い、生徒・保護者への情報提供の充実に努めることが必要です。

これらの視点を踏まえつつ、ここでは、上級学校の種類や内容を広く知るための活動から、進学したい高等学校を見つけるまでの高等学校の情報収集についての実践例を体験的な活動を中心に紹介します。こうした手法を通して、生徒や保護者だけでなく、教員も実践を通して適切な進路指導を行うために必要な情報を得ることが可能となります。

### 1 上級学校調査、高等学校等体験入学から情報を得る事例

#### (1) 取組の概要

- ア 既存の高校説明会に参加するものではなく、進路学習の一環として、中学生が一日、高等学校等を訪問し、授業体験学習を行う「高校学校発見DAY」を実施する。
- イ 第3学年の生徒とともに、保護者も参加できるようにする。

上級学校調査	
調査の内容	調査の方法
<ul style="list-style-type: none"><li>○教育方針、伝統や校風</li><li>○教育内容と主な特色（カリキュラム、資格等）</li><li>○教科以外の諸活動（学校行事、部活動等）</li><li>○主な施設・設備</li><li>○通学時間、学費等</li><li>○卒業生の進路状況</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○学校案内を見る。</li><li>○各高等学校のホームページを見る。</li><li>○高等学校訪問をする。</li><li>○高等学校に直接、電話などで聞く。</li><li>○高等学校紹介のガイドブックを見る。</li><li>○通学している先輩や兄弟に聞く。</li></ul>
調査した内容は記録用紙に整理し、冊子にまとめて学級で活用する。	



体験を通して理解を深める

『高等学校発見DAY(高校授業体験学習)』の実施

(2) 『高等学校発見DAY(高校授業体験学習)』について

ア ねらい

- 進路学習の一環として、高等学校を直接訪問し、生徒が自分の将来や適性を見据えた自分を活かす進路選択の一助とする。
- 高等学校での生活や学習についての具体的な情報を収集する。
- 卒業生が多く進学している高等学校で授業等を体験することにより、上級学校への理解を深める。

イ 概要

- ◇実施時期 11月～12月
- ◇訪問する高等学校 卒業生が多く進学している近隣の高等学校
- ◇体験の内容 各学科の特色ある授業を中学生向けに実施してもらう。  
その他、高等学校での活動を体験する。
- ◇当日の日程
  - ・全体会 ・学校食堂で昼食
  - ・授業見学(高校生の授業を見学)
  - ・体験授業(数名から30名に分かれて50分程度体験)
  - ・部活動見学 など

ウ 事前及び事後の学習

- 近隣で協力してもらえる高等学校の確認
- 体験授業の概要説明と希望調査
- 事前指導(前日)
- 報告書とお礼の手紙の作成

2 中学校に高等学校の先生を招いて情報を得る事例

(1) 取組の概要

- ア 生徒の進学希望が多い高等学校の先生を招き、『生き方発見DAY(出前説明会)』を校内で実施する。
- イ 第3学年の生徒、保護者だけではなく、希望する第1・2学年の保護者も参加できるようにする。

(2) 『生き方発見DAY(出前説明会)』について

ア ねらい

- 生徒が進学を希望する高等学校の先生から直接説明を聞き、高等学校についてより具体的な情報を収集する。
- 保護者も一緒に参加し、説明を聞くことによって、生徒の進路選択について家庭で話し合うきっかけとする。

イ 概要

- ◇実施時期 10月
- ◇説明に来ていただく高等学校
  - ・県立高等学校10校(専門学科の高等学校は科ごと)
  - ・私立高等学校 6校

- ◇内容等
- ・各高等学校の先生が各教室に分かれて高等学校の概要等について説明を行う。
  - ・生徒と保護者は希望する高等学校の教室に出向いて説明を聞く。
  - ・生徒はあらかじめ提出した希望にしたがって参加する。
  - ・説明は3回(3時限)行い、一人3校の説明を聞くことができる。
  - ・生徒と保護者が同じ高等学校の説明を聞かなくてもよい。
  - ・説明途中での入退室はしない。
- ◇当日の日程
- |      |   |             |
|------|---|-------------|
| 第1時限 | … | 13:45～14:15 |
| 第2時限 | … | 14:25～14:55 |
| 第3時限 | … | 15:05～15:35 |

### 3 高等学校在学中の子供をもつ保護者から情報を得る事例

#### (1) 取組の概要

卒業生の保護者を招き、「卒業生の保護者と語る会」を実施する。

#### (2) 「卒業生の保護者と語る会」について

##### ア ねらい

- 本校卒業生の保護者を講師として、子供の受験期の様子や現在の各高等学校での生活や学習の様子を聞き、進路選択に際しての親子の相談に活かす。
- 受験期の子供をもつ親としての悩みや不安の解消を図る。

##### イ 概要

◇実施時期 9月～10月

◇講師として招く保護者 20名程度

◇内容 第3学年の保護者を対象とし、卒業生の保護者が子供の高等学校での生活や学習の様子を簡単に説明し、その後、質疑応答を行う。

◇実施方法

- ・第3学年のPTAが主催する。
- ・県公立高等学校と私立高等学校、学年のバランス等を考慮して保護者に講師を依頼する。
- ・卒業生の保護者は2～3名ずつ3教室に分かれて行う。
- ・在校生の保護者は、説明を聞きたい講師の教室へ行って話を聞く。

◇当日の日程 放課後の時間を使い実施する。

### 4 高校生(卒業生)から情報を得る事例(その1 第3学年の生徒対象)

#### (1) 取組の概要

高等学校に進学している卒業生を招き、第3学年の生徒と「卒業生と語る会」を実施する。

#### (2) 「卒業生と語る会」について

##### ア ねらい

- 高等学校に進学している先輩から高校生活についての生の情報を得る。
- 進路選択や受験勉強についての体験談を聞いて参考にするとともに、悩みや不安の解消を図る。

## イ 概要

- ◇実施時期 夏季休業中
- ◇講師として招く高校生 10名程度
- ◇内 容 高校生から高校生活の様子や進路選択時における体験談を聞き、その後、質疑応答を行う。
- ◇実施方法
  - ・普通科と専門学科等、また学年のバランスを考慮して高校生に講師を依頼する。
  - ・全体会の後、小グループに分かれ卒業生を囲んで話し合う。
  - ・全体会と小グループの話合いの進行は中学生が行う。
- ◇当日の日程
  - ・全体会 9:00～ 9:50  
(高校生の話 一人3～5分 質疑応答 10分)
  - ・小グループでの話合い 10:00～11:00

## 5 高校生（卒業生）から情報を得る事例（その2 第1・2学年の生徒対象）

### (1) 取組の概要

高等学校に進学している卒業生を招き、第1・2学年の生徒と保護者に高校生活の様子について話してもらおう。

### (2) 「高校生からのメッセージ・今年度の入試を振り返って」について

#### ア ねらい

- 高等学校に進学している先輩から高校生活についての情報を得る。
- 進路選択や受験勉強についての体験談を聞いて、中学校3年生への進級を控えた2年生は、来年度への心構えについて啓発するとともに悩みや不安の解消を図る。1年生は、今後の2年間の中学校生活を計画的に送ることの重要性について知る。

## イ 概要

- ◇実施時期 3月（中学3年生の卒業後）
- ◇対 象 第1・2学年の生徒と保護者の希望者
- ◇講師として招く高校生 県立高等学校普通科、商業科、工業科、総合学科等の卒業生
- ◇内 容 第1部 【高校生からのメッセージ】
  - 3月に高等学校を卒業した生徒を中学校に招き、高校生活を振り返って話してもらおう。
  - 《話してもらおう主な内容》
    - ・高等学校名とその学習内容
    - ・高校生活の様子（学習・行事・部活動等）
    - ・高校生活3年間で学んだこと
    - ・中学校生活を振り返って
    - ・中学校での進路選択・進路決定を振り返って
    - ・中学校3年生を迎えるに当たってのメッセージ

## 第2部 【今年度の入試を振り返って】

3年生の進路担当職員（進路指導主事）から、今年度の進路選択の様子、そして、進路決定までの取組を4月からの流れにそって伝える。入試後に行った『入試アンケート』から下級生に記したメッセージ（学力検査、面接に関して）等も伝える。

- ◇実施方法
- ・進行は第2学年の進路担当職員が行う。
  - ・高校生が話す内容を焦点化するため、事前に質問内容を伝え、当日は司会の職員が高校生に質問して、それぞれの高校生に順番に同じ質問に答えてもらう。

## 6 高等学校説明会の参加など高等学校との連携、その他による情報収集の事例

### (1) 学校見学会や学校説明会への参加（第2・3学年の生徒、教員、保護者対象）

概要：7月頃から12月にかけて実施される。

その学校の教育方針や教育課程の内容、卒業生の進路状況の他、入試に関する具体的な情報を聞くことができる。

### (2) 教員対象の説明会（教員）

概要：実施時期は9月頃まで実施される。

その学校の教育方針や教育課程の内容、卒業生の進路状況の他、入試に関する具体的な情報を聞くことができる。経験の浅い若手教員にとっては重要な機会である。

### (3) 高校進学フェア等のイベントへの参加（全学年の生徒、教員、保護者対象）

概要：7月頃から9月頃にかけて実施される。

複数の高等学校の集まる説明会等で、情報を一度に集めることができる。

#### 【具体例】

- ・彩の国進学フェア（7月）
- ・埼玉私学フェア（7月～8月）
- ・産業教育フェア（11月）

### (4) 体験入学への参加（第3学年の生徒対象）

概要：夏季休業中を中心に実施される。

専門学科では実習などが体験できるので、自分にその学科が合っているのかを肌で感じることができる。

### (5) 文化祭一般公開日の訪問（全学年の生徒、教員、保護者対象）

概要：実施時期は学校により異なる。

学校の雰囲気や高校生の様子を知ることができる。

### (6) 高等学校の教員による出前授業の実施（全学年の生徒対象）

概要：専門的知識をもつ高等学校の教員に教科や総合的な学習の時間に支援していただくこと

により、将来への視野を広げることができる。

(7) 専門学科の高校生・教員による出前授業または体験授業（第2・3学年の生徒）

概要：実施時期は学校により異なる。専門学科の授業を体験することで、専門学科の雰囲気や授業について知ることができる。

(8) 高等学校の校長、教頭（管理職）による進路講演会（第3学年の生徒、保護者対象）

概要：高等学校の現状や高校側が求める生徒像など入試に係る内容を講演していただくことにより、将来への視野を広げるとともに、入試に関する具体的な情報を聞くことができる。

(9) 小学校の高等学校（専門学科等）訪問

概要：実施時期は各学年の校外学習と関連付けて実施できる。

小学校段階から近隣の専門高校を訪問し、体験的に様子を学ぶことで、自分に合った進路先の情報を収集できる。

(10) ふれあい講演会（進路講演会）

概要：実施時期はいつでも実施できる。

生徒並びに保護者の進路意識の啓発を図るために、公立中学校で実施され、小学校にも広がっている。地域等で活躍している方を講師に招き、働くことの厳しさや充実感、小・中学生の生き方などについての示唆をいただくことができる。

上記のような様々な創意工夫により、各学校において教師自らが積極的な情報収集を行い、生徒、保護者への適切な情報提供に努めることが重要です。また、生徒や保護者への情報提供は、進路学習・進路通信・面談等を活用することはもちろん、日ごろから進路資料室や進路掲示板などを活用し、過去の情報と共に最新の情報を随時発信していくことも重要です。

中高連携については留意すべき点もあります。連絡の窓口等は校長、教頭（管理職）と相談の上で進めていくことが重要です。詳細の部分については、担当教員が窓口になる場合もありますが、重要な連絡については担当教員から高等学校（教頭）へ直接すると失礼になります。今後、中高連携を図っていくためにも共通理解しておくことが重要です。

【進路資料室や進路掲示板の活用例】

進路資料室	進路掲示板
<ul style="list-style-type: none"> <li>○過去の進路通信の綴り</li> <li>○過年度の入試問題</li> <li>○県公立高校の過去の倍率一覧</li> <li>○面接を行った生徒から集めた質問等の情報綴り</li> <li>○受検（受験）後に行った生徒のアンケート綴り など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進路通信</li> <li>○各学校のポスター</li> <li>○進学フェアや学校説明会の日程一覧</li> <li>○出願に向けての注意事項の掲示</li> <li>○進路予定の一覧 など</li> </ul>